

(1) 単元の評価規準と小単元の評価規準

科目名	ビジネス情報		単位数	4 単位
研究事例	表計算ソフトウェアを利用した実在企業の財務分析の授業展開例			
単元名	第 2 章 ビジネス情報の分析 1 データの分析 2 財務情報の分析と活用 3 販売情報の分析と活用 4 手続きの自動化			
単元の目標	表計算ソフトウェアを利用して、財務諸表に関する情報の中から、企業の収益性、安全性、生産性、成長性などに関する分析や分析結果の活用方法、各種の販売情報の分析や活用の方法を習得できる。			
単元の評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	ビジネス情報に関心を持ち、ソフトウェアを積極的に活用し、現場の業務の改善・向上を目指して、意欲的に取り組み、自動化システムの推進のために自ら調べようとする。	ビジネスに関する情報を分析、活用するためのソフトウェアの知識や技術を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアを利用して分析する技術を身につけ、データを数値的に把握し、活用できるように的確に表現する。	ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアを利用して分析する知識を身につけ、データを分析し、活用する意義や役割を理解している。

小単元名	2 財務情報の分析と活用 (8 時間)			
小単元の目標	会計情報の分析の意味、分析方法、分析内容について理解できる。財務分析のために、表計算ソフトウェアを利用し理解を深める。			
小単元の評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	会計情報の分析に関心をもち、ソフトウェアを活用して、自らすすんで決算書の数値の比例を求めて分析しようとする。	企業の財政状態や経営成績の把握するために、必要な分析方法を適切に判断し、創意工夫している。	表計算ソフトウェアを利用して分析する技術を身につけ、分析結果のグラフ化ができる。	会計情報の分析内容を理解し、データ分析に必要な知識を身につけ、活用することができる。

(2) 小単元の指導と評価の計画

小単元「2 財務情報の分析と活用」の指導と評価の計画 (二次 財務情報の分析内容 抜粋)

		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
小単元の評価規準		会計情報の分析に関心を持ち、ソフトウェアを活用して、自らすすんで決算書の数値の比例を求めて分析しようとする。	企業の財政状態や経営成績の把握するために、必要な分析方法を適切に判断し、創意工夫している。	表計算ソフトウェアを利用して分析する技術を身につけ、分析結果のグラフ化ができる。	会計情報の分析内容を理解し、データ分析に必要な知識を身につけ、活用することができる。	
授業の流れ		一次 財務情報の収集と分析方法 (2時間) 二次 財務情報の分析内容 (6時間)				
次	時	学習内容	学習活動における具体的評価規準および評価方法			
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
2	1	財務情報の分析内容について理解する。	財務諸表をもとに分析するための項目を積極的に把握しようとしている。(ノート、対話)			財務分析に必要な知識を身につけ、活用するために必要な項目を理解している。(対話)
	2	財務情報の分析を表計算ソフトウェアの利用により理解する。			表計算ソフトウェアを利用して、分析結果のグラフ化といった表現ができる。(行動観察)	財務分析に必要な知識を身につけ、活用するために必要な項目を理解している。(小テスト)
	3	企業の財務諸表からの財務分析を表計算ソフトウェアの利用により理解する。	財務諸表から数値を読み取り、意欲的にグラフ化しようとしている。(行動観察)	分析結果をもとに経営状態を把握し、企業の特徴をとらえることができる。(ワークシート)		
	4	グループに分かれて同業の複数企業の財務情報を収集し、表計算ソフトウェアを利用して財務分析をおこない、発表資料を作成することにより理解する。	必要な財務データを意欲的にWebサイトから収集している。(行動観察)		表計算ソフトウェアやプレゼンテーションソフトウェアを利用して、分析結果を表やグラフにまとめ、発表資料を作成することができる。(発表資料)	
	5	適切な財務分析方法を用いて、複数企業の財務情報の比較をおこなうことにより理解する。		分析結果を明確にさせるための表やグラフを用いることができる。(発表資料)		適切な財務分析方法を用いて、経営状態を把握することができる。(発表資料)
	6	グループごとに複数企業の財務分析結果の発表をおこなうことにより理解する。		複数企業の財務分析をもとに、表やグラフから企業の特徴をとらえることができる。(行動観察)	ソフトウェアを利用して、分析結果を適切に表現できる。(発表評価シート)	

学 習 指 導 案

科 目	ビジネス情報	単元名	第2章 ビジネス情報の分析 第2節 財務情報の分析と活用	
本時の主題	2 財務情報の分析内容（3時間目 / 6時） 企業の財務諸表からの財務分析を表計算ソフトウェアの利用により理解させる			
本時の目標	財務諸表から数値を読み取り、意欲的にグラフ化しようとしている。【関心・意欲・態度】 分析結果をもとに経営状態を把握し、企業の特徴をとらえることができる。【思考・判断】			
過程	指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの復習 	<ul style="list-style-type: none"> 財務諸表分析の4つの観点（収益性、成長性、生産性、安全性）をワークシートに記入し、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、これらの観点は企業の財政状態や経営成績の良否を判断するためのものであることを指示する。 	資 1
5 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の課題説明（表計算ソフトウェアを利用した財務諸表分析） 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の課題が、実在する企業の財務諸表の分析、経営状態の把握、その企業の特徴をとらえる、であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のためには、前時までに学習した分析手法が必要であることに留意する。 	資 2
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 企業の決算情報の収集 分析に用いる項目の確認と比率の計算 グラフ化 分析 グループ内で分析結果を発表し、企業の特徴をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークコンピュータを利用して、本時に分析する企業の決算情報データをWebサイトから閲覧する。 分析項目の意味を確認し、財務諸表から数値を読み取り、比率の計算を行う。 計算結果をもとに、レーダーチャートを作成する。 分析項目の数値とレーダーチャートから、企業の経営状態を読み取り、ワークシートにまとめる。 グループ内で分析結果を発表し、企業の特徴をあげ、グループ発表のまとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> Web ブラウザソフトウェアの起動を指示する。 本時に分析する企業の貸借対照表、損益計算書の決算情報データは、生徒がWeb上で検索して、企業サイトから閲覧することを指示する。 表計算ソフトウェアの起動を指示する。 分析項目の意味を教科書で確認しながら、比率の計算をするように指示する。 財務諸表から数値を読み取り、意欲的にグラフ化しようとしている。 【関心・意欲・態度】 <評価手法：生徒観察> 前時に学習した教科書の例題を参考にして、財務諸表分析の4つの観点から分析することに留意する。 分析結果をもとに経営状態を把握し、企業の特徴をとらえることができる。 【思考・判断】 <評価手法：ワークシート> 	注 1 資 3 注 2 資 4
40 分	<ul style="list-style-type: none"> グループの全体発表 	<ul style="list-style-type: none"> グループの意見を代表者が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 分析結果から企業の経営状態の特徴や改善点を発表するように指示する。 	
ま と め 5 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の課題確認 次時の展開説明 	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトウェアの利用によって、財務諸表分析が容易に行えることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次時の学習内容をふまえ、表計算ソフトウェアを利用して、扱う項目やグラフに工夫を加えることによって、より分析が深まることに留意する。 	

< 資料と注釈 >

- 資料1：配布ワークシートの「復習：財務諸表分析四つの観点」欄を使用する。
- 資料2：配布ワークシートの「本時の課題：分析する項目」欄を参照する。
- 資料3：表計算ソフトウェアのシートを使用する。
- 資料4：配布ワークシートの記入欄を使用する。

注釈1：JR東海のWebページ（企業情報 - 決算情報 - 決算公告）から貸借対照表・損益計算書を閲覧する。
<http://www.jr-central.co.jp/>

注釈2：分析結果をまとめるための表計算ソフトウェアのシートについては、共通の枠をあらかじめファイルサーバに用意しておき、生徒がそれぞれのパソコン上にダウンロードする。

< 指導上のポイントと考察 >

財務諸表分析の单元では、「会計」といった他科目の学習進度との関わりに留意しなければならない。「ビジネス情報」においてはソフトウェアの利用・活用が目的であるため、分析項目に深入りしすぎないように配慮しながら、経営分析を行い、その企業の経営状態の特徴や改善点をまとめることに留意した。

本時で扱った企業の財務諸表は、「JR東海」のデータを用いた。比較対象がない単体一社の分析結果のため、企業の特徴はとらえにくいだが、生徒にとって身近でイメージしやすい企業であったことから、分析結果と企業の特徴との関連が容易に行えたようである。

次時では、グループに分かれて、同業の複数企業の財務諸表データをWebから検索して数値を読み取り、適切な分析項目を用いてグラフ化し、分析結果をプレゼンテーションソフトにまとめ、グループごとに発表するという予定である。したがって、本時のまとめにおいて次時への結びつきを考慮し、前時までに学習した他の分析項目やグラフ化の手法を復習しながら、異なる分析手法による結果の多様性についてふれた。

【 授業で使ったワークシート 】

ビジネス情報

名前()

復習：財務諸表分析四つの観点

収益性の分析

収益性とは...

成長性の分析

成長性とは...

生産性の分析

生産性とは...

安全性の分析

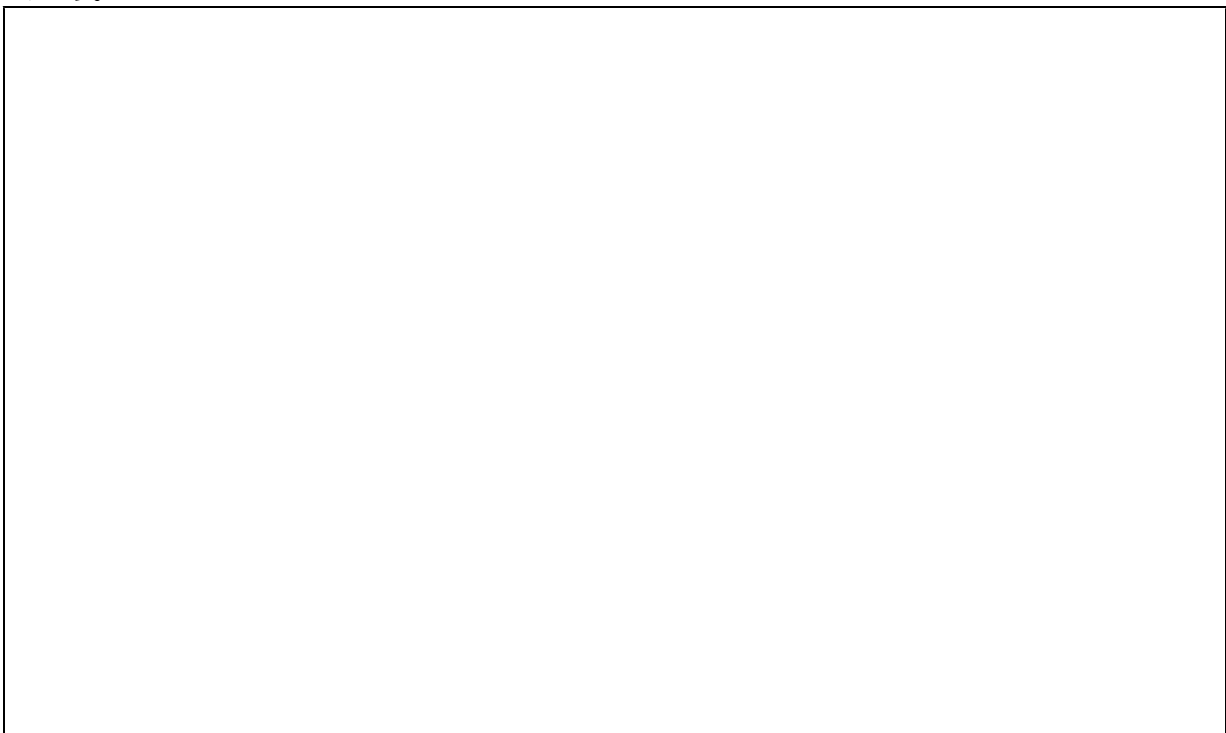
安全性とは...

本時の課題：実社会にある企業の財務諸表分析をしてみよう！

1. 分析する項目

総資本経常利益率...総資本に対してどれだけの経常利益を上げたか
売上高経常利益率...売上に対してどれだけの経常利益を上げたか
流動比率...短期の支払能力はあるのか
自己資本比率...総資本のうち、自己資本がどのくらいの割合を占めるか
総資本回転率...調達した資本が1会計期間に何度利用されたか
有形固定資産回転率...設備投資の資金が有効に利用されているか

2. データを入力し、レーダーチャートにして、4つの観点から分析して、経営状態や企業の特徴を書いてみよう。



JR東海の財務情報 分析結果

比 率	実 績	標 準	割 合
総資本経常利益率	2.2 %	6.1 %	36.3%
売上高経常利益率	10.4 %	3.5 %	297.7%
流動比率	23.4 %	126.8 %	18.4%
自己資本比率	14.3 %	6.0 %	238.1%
総資本回転率	0.2 回	1.8 回	11.8%
有形固定資産回転率	0.2 回	5.9 回	4.0%

注意1:「売上高」を用いるものについては、損益計算書の「営業収益」を使用する。

注意2:「営業収益」は「鉄道事業」と「関連事業」の二つの合計の数値とする。

